



誰にも
NTR

言えない

秘密

桂木友梨：…ゆり姉は
僕の憧れの存在だった

大丈夫？

うちの隣に住んでいて
昔から頼りない僕の面倒を
いつも心配そうにみてくれる

このくらい
なんでもないよ…

小さい頃からずっと一緒に
唯一僕がまともに話せる女子で

僕が初めて好きに
なった人だ

そう…

男の子ね

初めて会ったのは
7歳の頃で突然隣に
引っ越してきたんだ

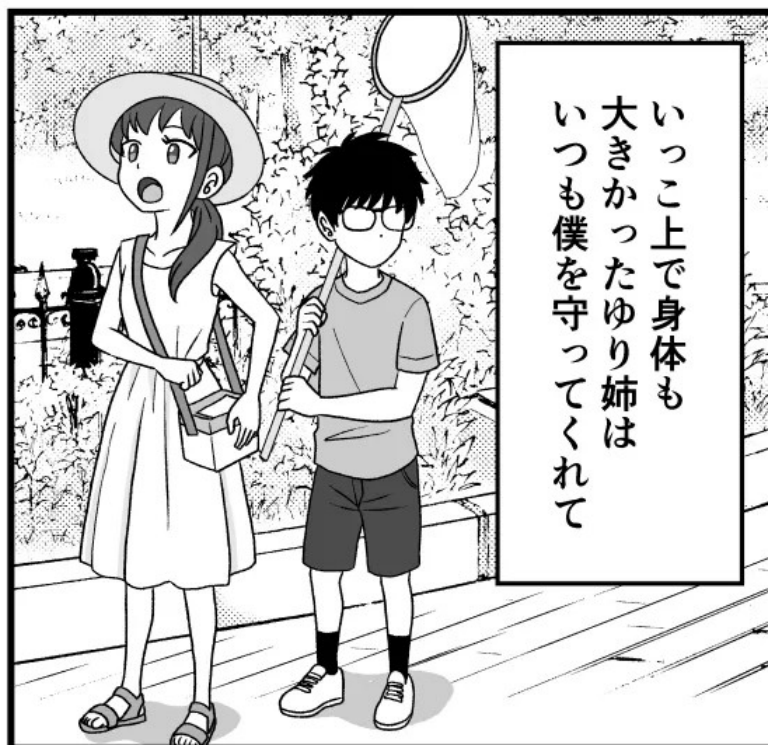


歳が近かったのもあり
すぐに仲良くなった僕達は
一緒に遊ぶようになり……

いつの間にか常に一緒に
いるようになっていった



いっこ上で身体も
大きかったゆり姉は
いつも僕を守ってくれて

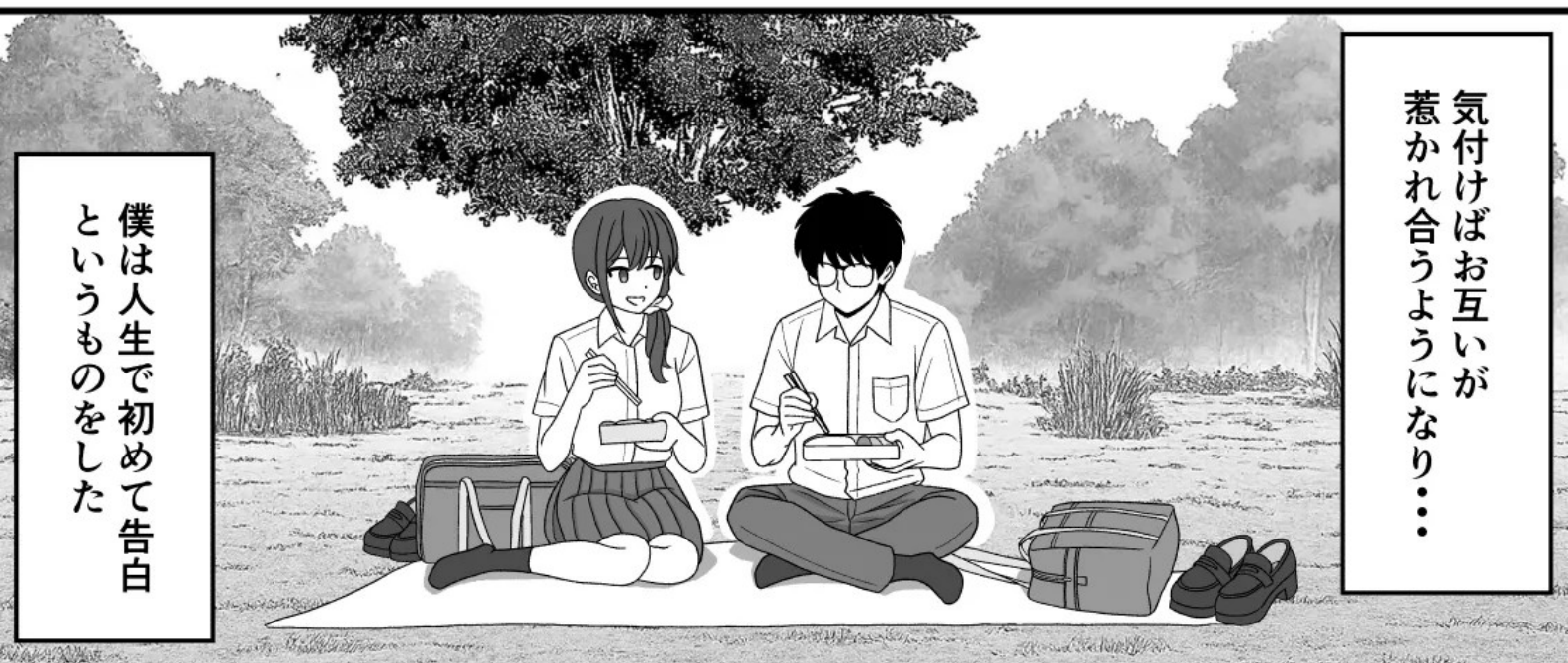


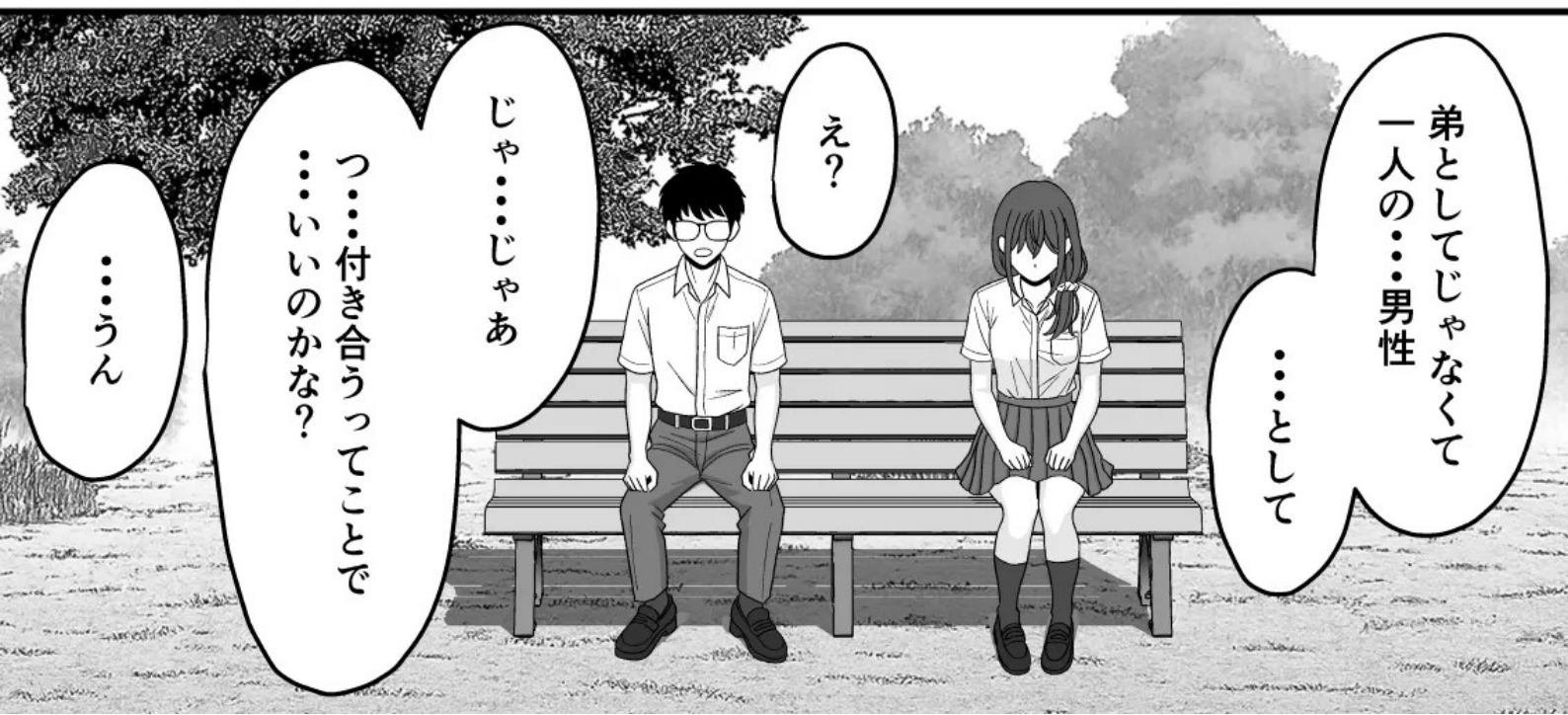
あんまり勉強が得意じゃない
ゆり姉に唯一得意な勉強を
教えるのが僕の役目だった



気付けばお互いが
惹かれ合うようになり……

僕は人生で初めて告白
というものをした







それから毎日
楽しかった



二人でいる何気ない
日常が特別に思えた



ゆり姉に認めて
もらえるような

改めてこういうの
ちよつと照れるね

頼りがいのある男に
なろうと思った



ゆり姉といるだけで
毎日が幸せだった

私ね

大樹が告白してくれて
とても嬉しかったの

僕なんて嬉しすぎて
興奮しちゃって

あの夜寝れな
かったんだよ

ふふっ

大袈裟ね

あの日までは……



ちよっ…

ちよつと

ああっ

あっ

そんなに
がつつかないで!

激し…

僕はその日…

ゆり…

姉…

部活の先輩とゆり姉がセックスしているのを目撃してしまったのだ

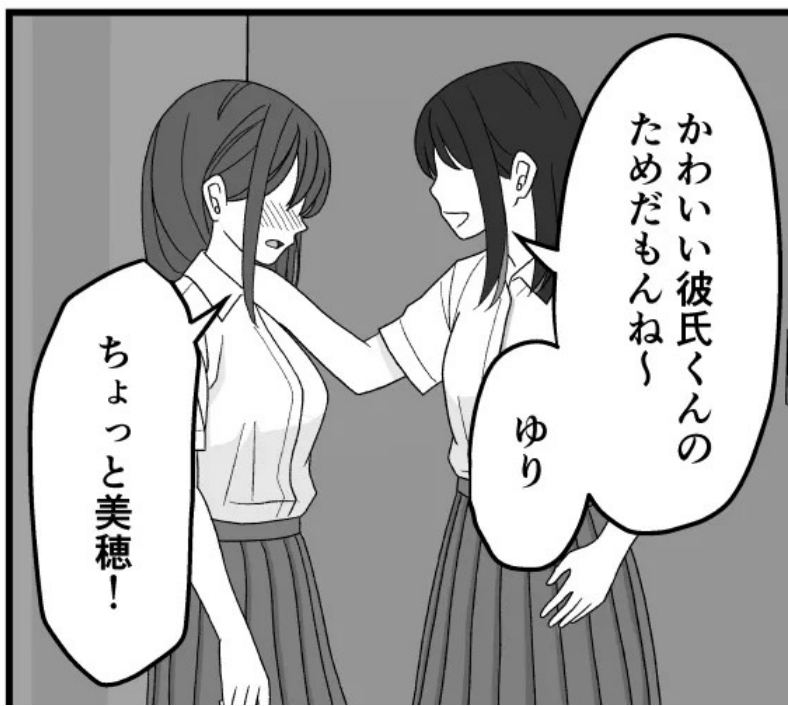
いやっ！

ちよっと待って！

大…樹…

どうして大樹がここに…

—
数時間前
—



天童知らないの？

この前入ってきた
未経験の2年生

鈴木大樹くん

あのどんくさい2年坊か…

おい鈴木

あの子が彼氏
なんだよねー

ヒョキッ

もう美穂！

へえー

そんな雑用あとで
みんなでやるからさ

お前もこっちきて
混ざれよ

あ、うん

でももう少しだから

僕、まだ下手くそで
こういう事でしか
貢献できないからさ

真面目だなー

ゆり姉、僕野球部に入ることにしたんだ

あら、野球に興味があったなんて初耳だわ

別に野球じゃなくても良かったんだけど

ほら、僕身体が弱いでしょ

少しでも体力作りになればと思って

随分急なお話ね

ゆり姉を守れるような強い男になりたいんだ

そう……

私はその気持だけでも十分幸せよ

おい、こりゃあ
どういふことだよ？



ようやく俺の誘いに
のってくれたと思ったら

彼氏がいるだあ？



俺がお前のこと前から
好きだったって
知ってるよな？

それは…

気持ち嬉しいけど
お断りしたでしょ

しかも俺を差し置いて
あんな冴えねえ奴と
くっつきやがって



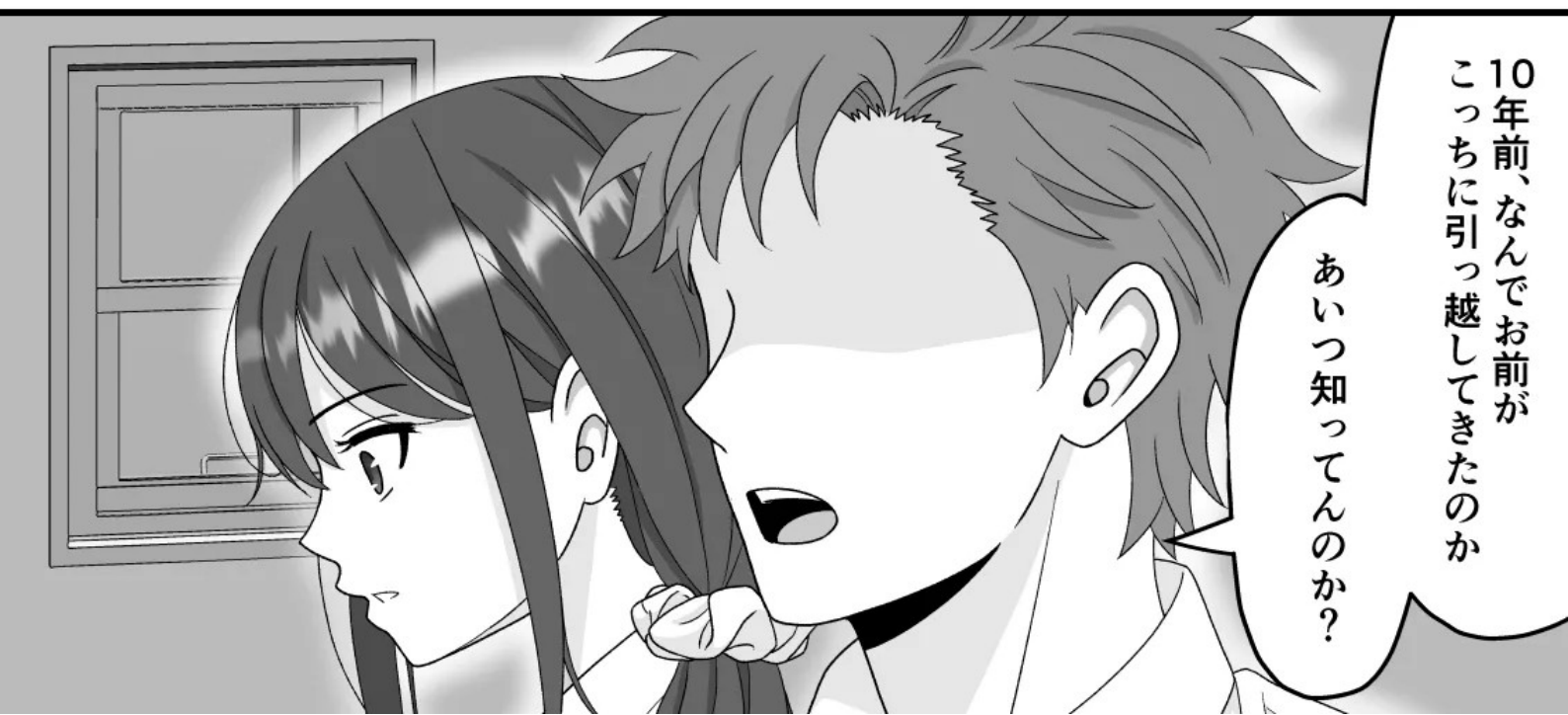
今からでも
遅くねえって

俺にしとけ

ごめんなさい

私、あの人が
好きなの…







なっ……!

強盗殺人

14年前、当時60代だった
夫婦の家に押し入り、
夫婦を殺害したのち
現金20万円を盗んで逃亡



翌日、犯人は捕まり
裁判ののちに死刑が確定



当時、病気がちの妻と
幼い子供を抱えた犯人は
お金に困りやむなく犯行
に及んだとされている

俺の親父はこの辺じゃ
顔のきいた政治家でさ

そういう情報はちょっと
調べればすぐに詳しく
わかったちゃうんだわ

もちろんその妻や
子供に罪はない

父親の独断で行われた
犯行だったらしいが…

世間はそうは見えて
くれないだろう

凶悪な事件を起こして
しまった加害者の家族は

社会から偏見や差別
様々な困難に直面する

転校した回数4回

お前も苦勞
してきたんだろ？

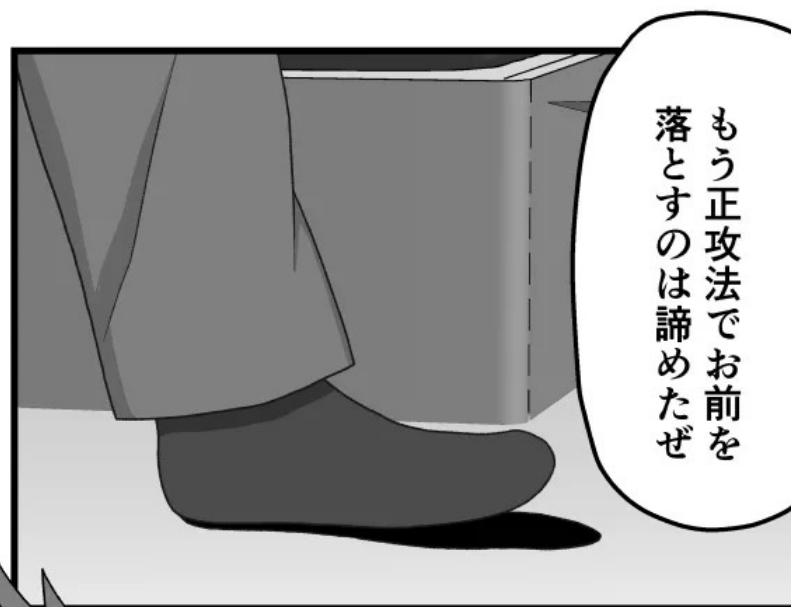
やめてっ！

お願い…

私達の今の暮らしを
壊さないで…

お前も聞かれたくない
だろうから場所を移そうか







俺が一晩であいつのこと
忘れさせてやるよ

俺の女に
なれるように……



そんなこと
絶対にならないわ



そうかよ……

私は大樹が好き

その気持ち
変わらなければいいな

なっ……



最初はなんで転校
しなきゃならないんだろう
って思ってた

引っ越し前後の
お母さんはいつも
悲しそうな顔をしていた

でも時間とともに
だんだん笑顔が見られる
ようになって……

そしてまた転校が決まると
お母さんはすごく
悲しそうな顔をしていた

少し大きくなると私にも
わかるようになった

お母さんは私を
守ってくれていたんだ

死刑囚の子供だって
噂が立つ前に

事件の事が誰かに知られるたびに
すぐに知らない街に引っ越して
私を守ってくれていた

この街にきて10年……

やっと平穏が訪れたと
思っていた

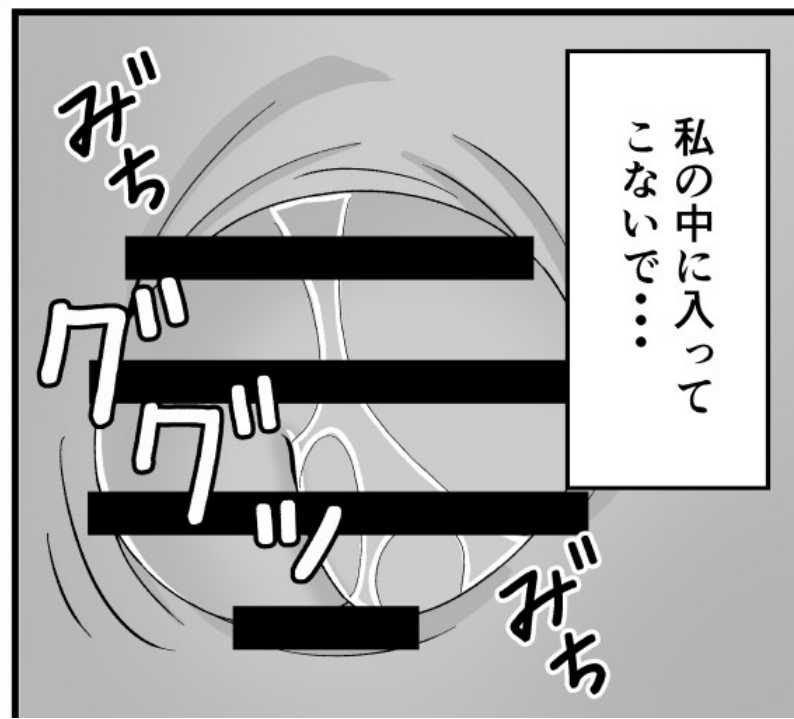
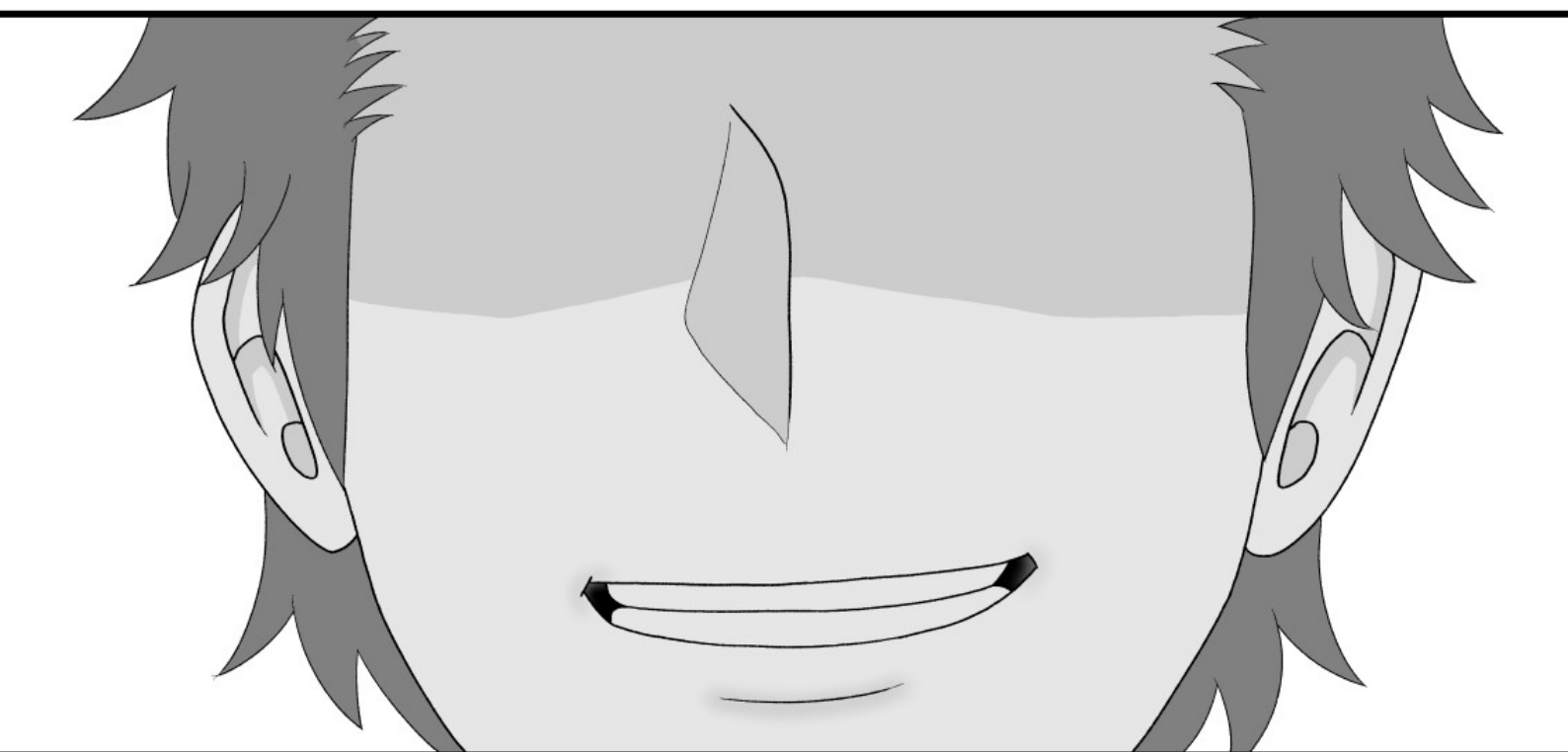
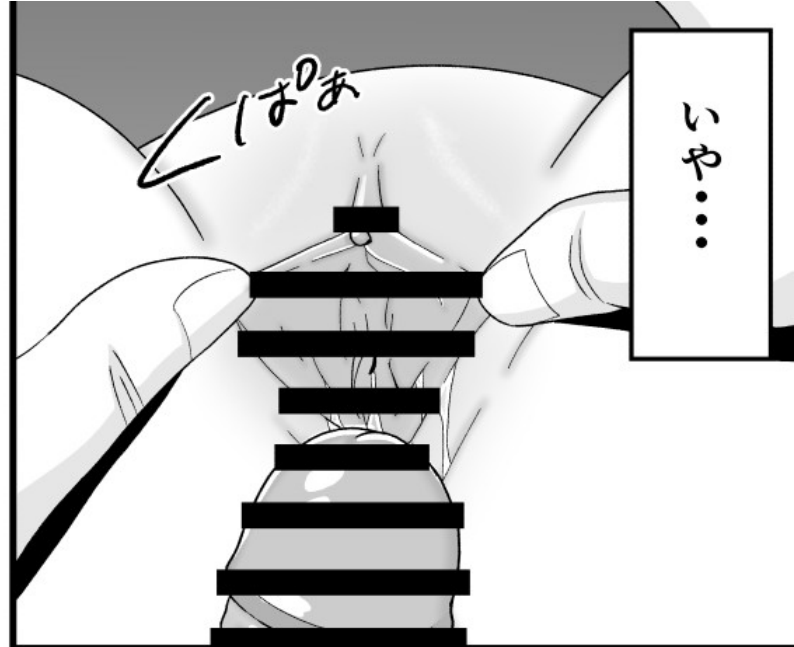
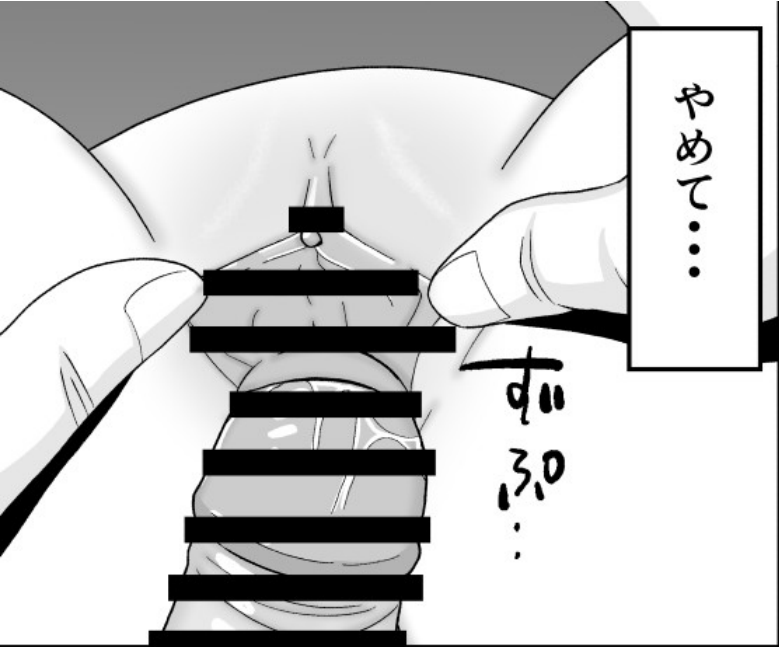
もうお母さんに
あんな顔をさせるわけ
にはいかない

ママ
元気だして

ごめんね大樹……









あっ

ああっ

やめっ……て……

ズッ

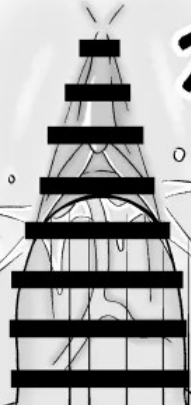
ズヨ

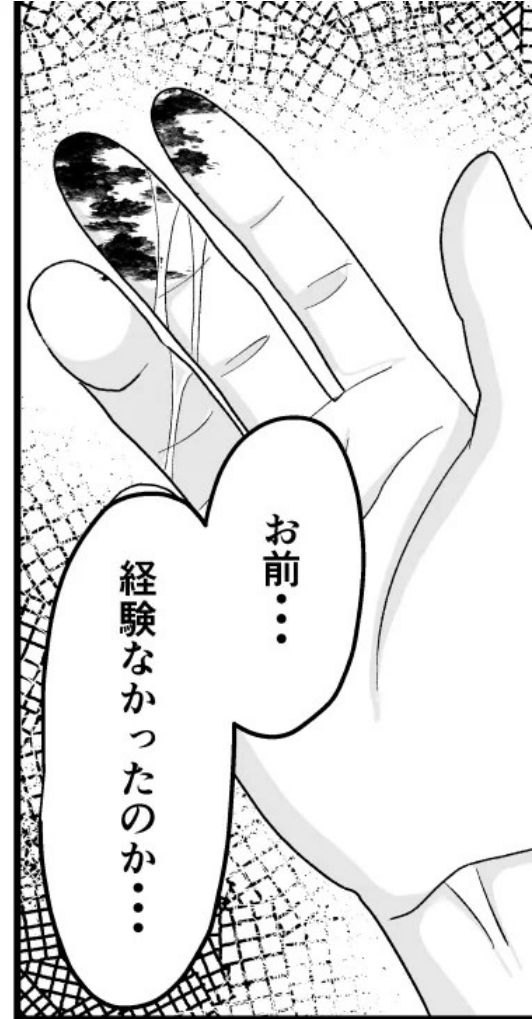
ズヨ

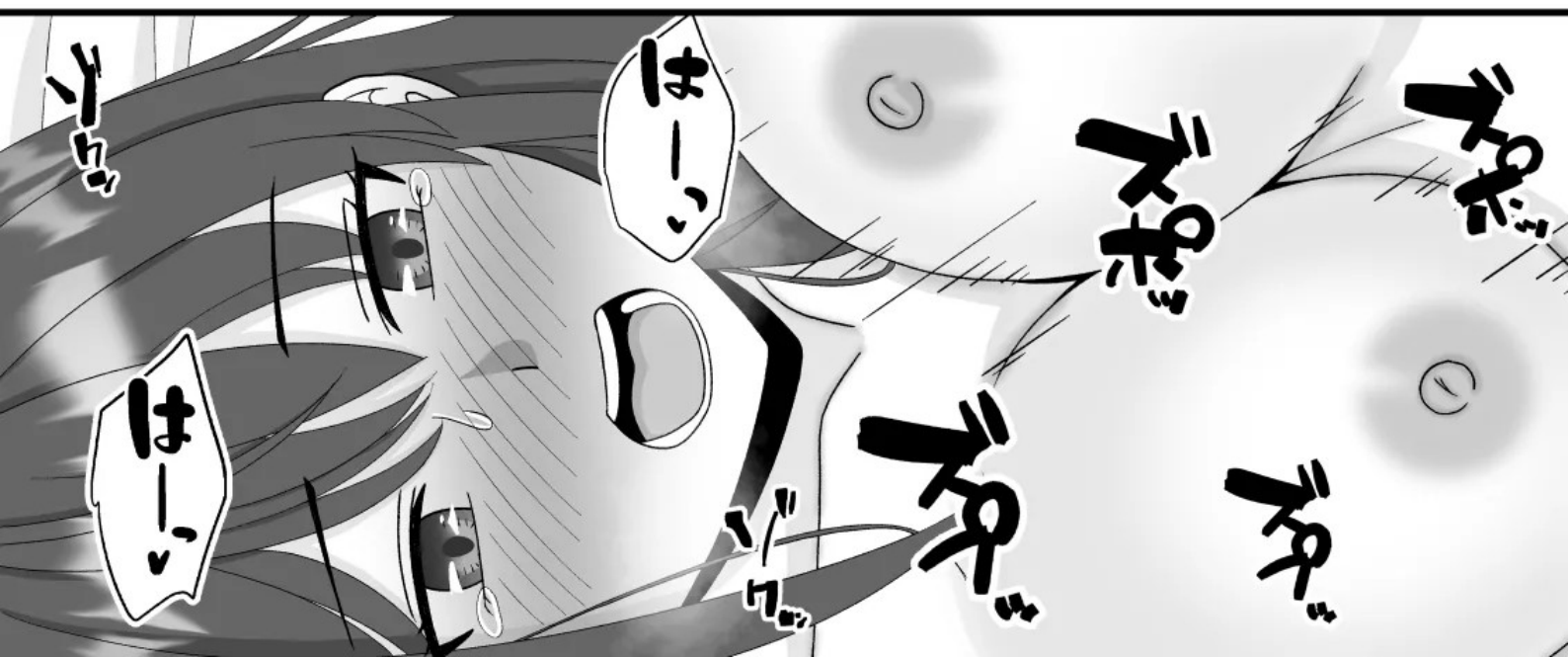
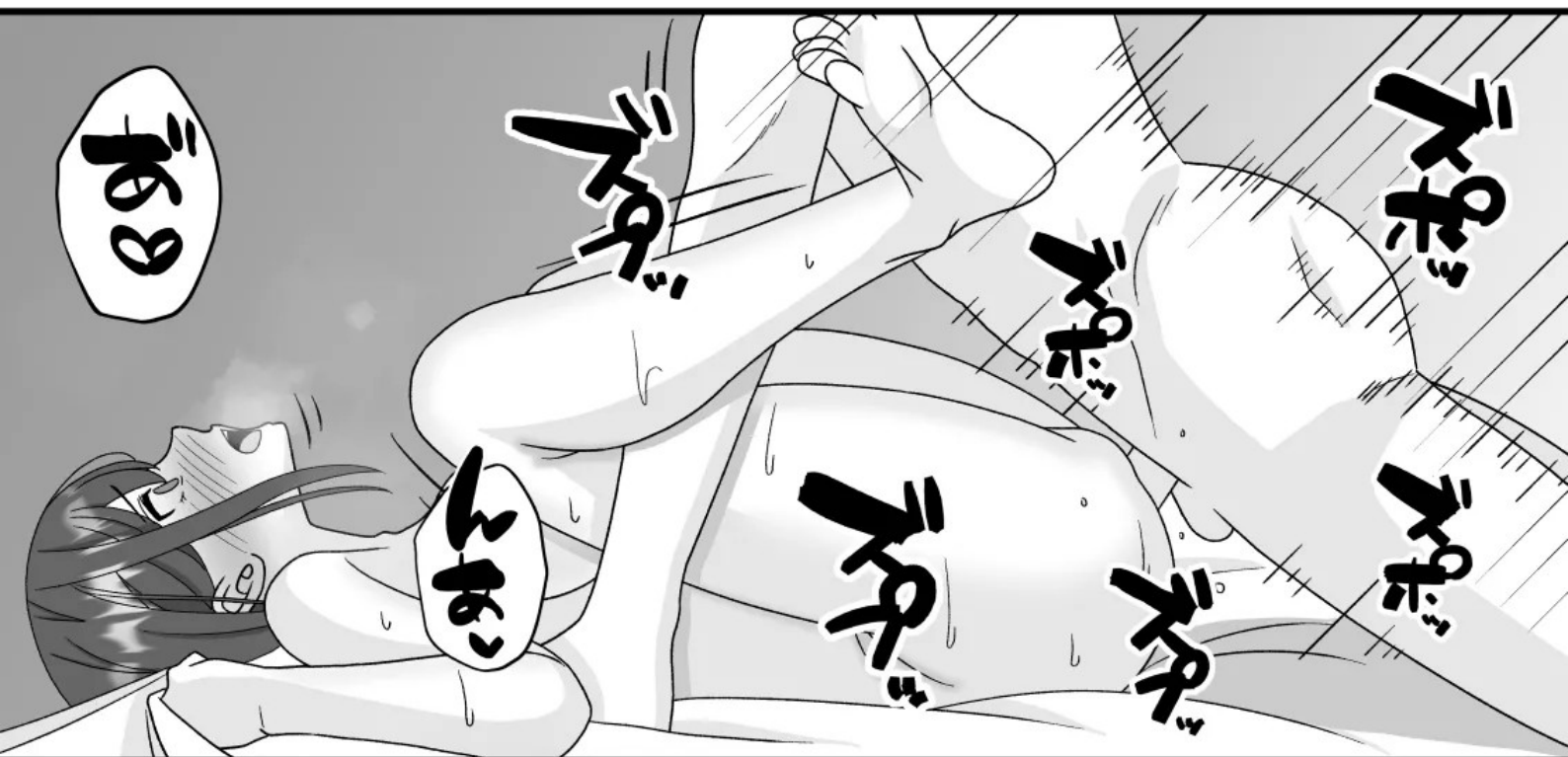
ズッ

ズヨ

ズヨ







お前のまんこ
最高だぜ！

もう
もたねえよ！

中に出すぞ！

だめっ！

中は……
やめっ……て……

いやあああつ……







さっきよりスムーズに入るようになったな！

中が俺のちんこの形になっってきたか？

お願いっ…

こんなこと…

もう…やめっ…て

おい桂木！

ケツの穴まで丸見えだぜ

いやっ…

見ないでっ！

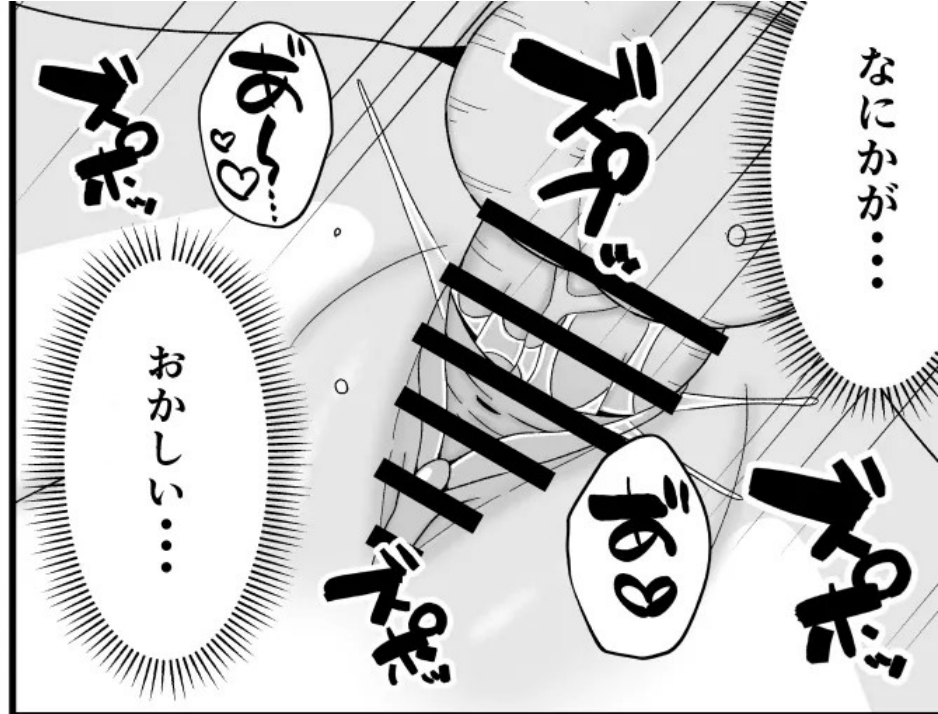


はい

はい

感触が最初と違う...

アレが出し入れ
されるたびに
体が反応してる



なにかが...

あー...♡

おかしい...



私...感じてる...

もうやめて...

はい

ズン...

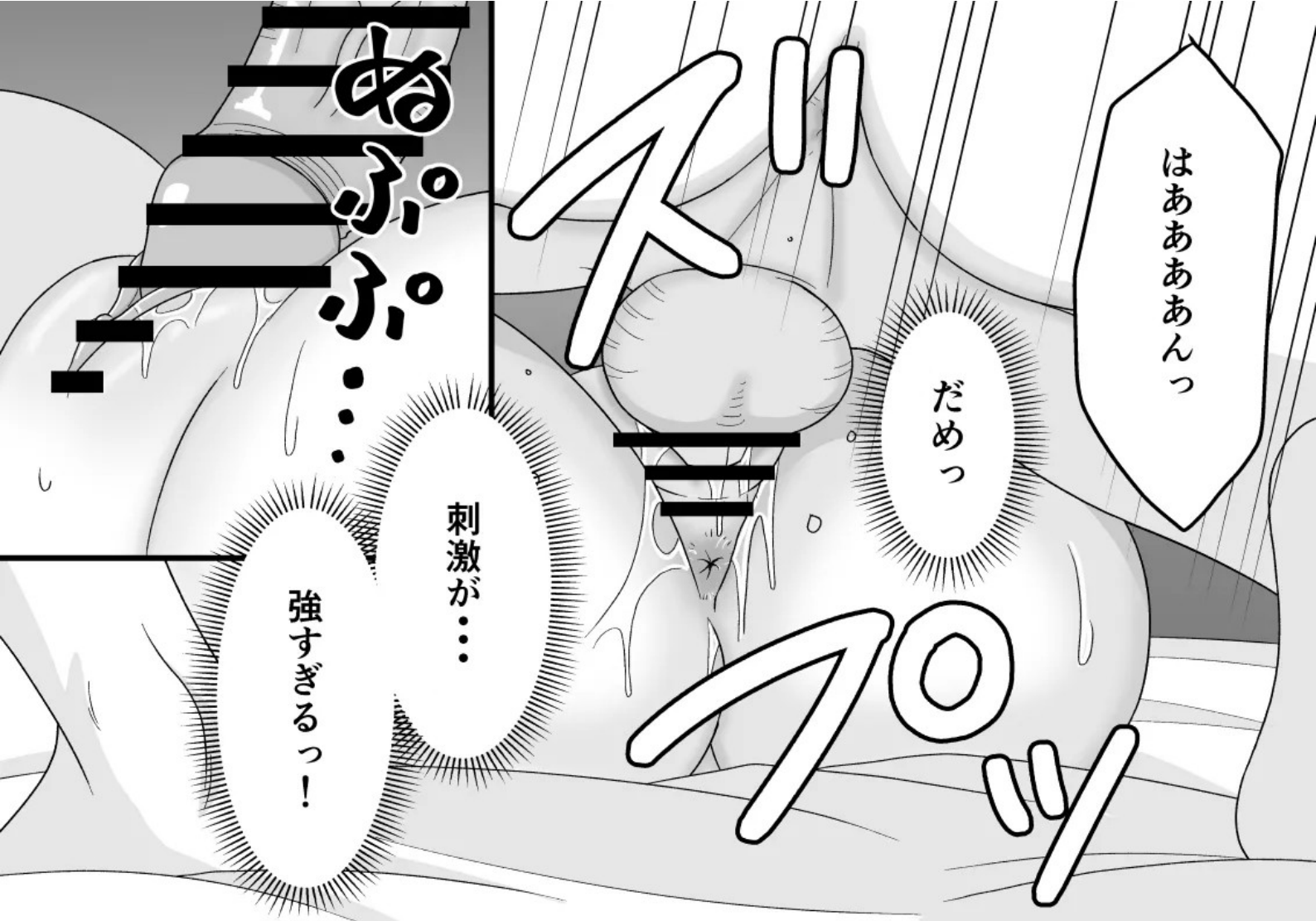
このままじゃ私の体が
おかしくなる!

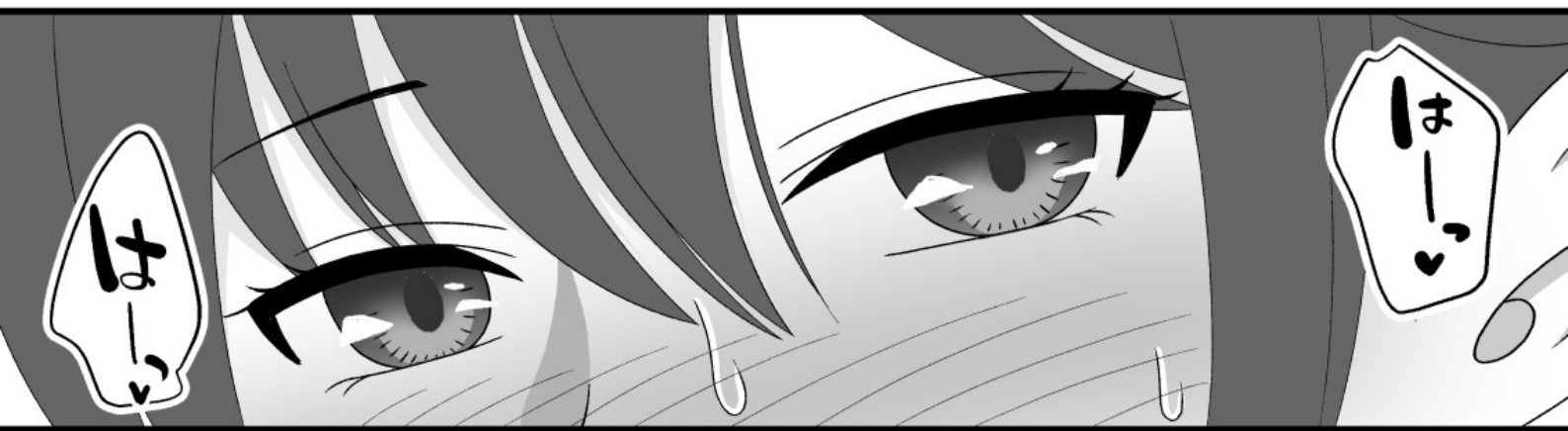
あっ

あんっ

はい









約束が違う！



どうして！

どうしてこんな
ことするの!?

お前のためだろ！



いつまであんなもやし野郎
と付き合って逃げ回ってる
つもりだ！

俺がいれば守ってやれる！

お前だけじゃない

お前の母親も

逃げ回る人生から
オサラバできるんだよ！



ああ…
また失ってしまった

大切なものは全部
手に入れたと思ったら
なくなってしまう

お母さんの笑顔…

学校の友達…

大樹…

私は一生償い続けて
いくんだわ

ねえ、お父さん

なんであんな事したの？

私達、貧乏でも
幸せだったのに…



あとがき

本書をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

ピクシブやファンティアにて新作の進捗を掲載していますので、ご興味がありましたら覗いてみて下さい。
作品に対する感想やご要望も歓迎しております。

最後まで見ていただき本当にありがとうございました！

誰にも言えない秘密

発行日 : 2025年10月16日
発行者 : くろねこ
ピクシブ : <https://www.pixiv.net/users/115792542>
ファンティア : <https://fantia.jp/fanclubs/536256>

-
- この作品はフィクションです。実在の人物・作品・団体・出来事などには関係ありません。
 - この本は個人が非公式に発行したものです。そのため、公式設定に準拠していません。
 - 18歳未満の閲覧は禁止です。本書の転載、編集、トレース、転売、使用を禁止します。

●This is a work of fiction. Any resemblance to actual persons, living or dead, works, organizations, events, or locales is entirely coincidental.

●This work is an unofficial publication by a private individual.

It does not represent any official point of view.

●ADULTS ONLY 18+. DO NOT REPOST, EDIT, TRACE, RESELL OR USE MY WORKS.